

付着しないように炭酸水素ナトリウム 2.1 g を加えて振り混ぜ、大部分の炭酸水素ナトリウムを溶かし、この液の中に無水酢酸 1.0 mL を速やかに注入する。直ちに軽く栓をし、ガスの発生がやむまで放置した後、激しく振り混ぜ、5 分間放置した後、クロロホルム 25 mL ずつで 6 回抽出する。各クロロホルム抽出液は毎回脱脂綿を用いてろ過する。全クロロホルム抽出液を合わせ、水浴上で空気を送りながら加熱濃縮して 3 mL とする。この液を質量既知のビーカーにクロロホルム少量で洗い込み、再び加熱して蒸発乾固する。残留物を 105 °C で 30 分間乾燥し、デシケーター（シリカゲル）中で放冷した後、その質量  $W$  (mg) を精密に量り、クロロホルムに溶かし、正確に 5 mL とする。この液につき、層長 100 mm で比旋光度  $[\alpha]_D^{20}$  を測定する。

$$\begin{aligned} & \text{エピネフリン (C}_9\text{H}_{13}\text{NO}_3\text{) の量 (mg)} \\ & = 0.5923 \times W \times \left( 0.5 + \frac{0.5 \times |[\alpha]_D^{20}|}{93} \right) \end{aligned}$$

#### 貯法

保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

## エピネフリン注射液

Epinephrine Injection

塩酸エピネフリン注射液

塩酸エピレナミン注射液

塩酸アドレナリン注射液

本品は水性の注射剤で、定量するとき、エピネフリン (C<sub>9</sub>H<sub>13</sub>NO<sub>3</sub>; 183.20) 0.085 ~ 0.115 w/v% を含む。

製法 本品は「エピネフリン」をとり、薄めた「塩酸」(9 → 10000) に溶かし、注射剤の製法により製する。

性状 本品は無色透明の液である。

本品は空気又は光によって徐々に微赤色となり、次に褐色となる。

pH: 2.3 ~ 5.0

#### 確認試験

(1) 本品 1 mL に水 4 mL 及び塩化鉄(III)試液 1 滴を加えるとき、液は濃緑色を経て、徐々に赤色に変わる。

(2) 本品 1 mL ずつを試験管 A 及び B にとり、以下「エピネフリン」の確認試験(2)を準用する。

定量法 本品 30 mL を正確に量り、分液漏斗に入れ、四塩化炭素 25 mL を加えて 1 分間激しく振り混ぜた後、放置し、四塩化炭素層を除き、更にこの操作を 3 回繰り返す。分液漏斗の栓及び口は水少量で洗い込む。これにデンプン試液 0.2 mL を加え、振り動かしながらヨウ素試液を滴加し、液が持続する青色を呈したとき、その青色が消えるまで直ちにチオ硫酸ナトリウム試液を滴加する。次に分液漏斗の口に付着しないように炭酸水素ナトリウム 2.1 g を加えて振り混ぜ、大部分の炭酸水素ナトリウムを溶かし、この液の中に無水酢酸 1.0 mL を速やかに注入する。直ちに軽く栓をし、ガスの発生がやむまで放置した後、激しく振り混ぜ、5 分間放置した後、クロロホルム 25 mL ずつで 6 回抽出する。各クロロホルム抽出液は毎回脱脂綿を用いてろ過する。全クロロホルム抽出液を合わせ、水浴上で空気を送りながら加熱

濃縮して 3 mL とする。この液を質量既知のビーカーにクロロホルム少量で洗い込み、再び加熱して蒸発乾固する。残留物を 105 °C で 30 分間乾燥し、デシケーター（シリカゲル）中で放冷した後、その質量  $W$  (mg) を精密に量り、クロロホルムに溶かし、正確に 5 mL とする。この液につき、層長 100 mm で比旋光度  $[\alpha]_D^{20}$  を測定する。

$$\begin{aligned} & \text{エピネフリン (C}_9\text{H}_{13}\text{NO}_3\text{) の量 (mg)} \\ & = 0.5923 \times W \times \left( 0.5 + \frac{0.5 \times |[\alpha]_D^{20}|}{93} \right) \end{aligned}$$

#### 貯法

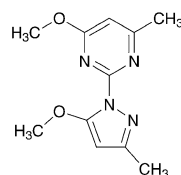
保存条件 遮光して保存する。

容器 密封容器。本品は着色容器を使用することができる。

## エピリゾール

Epirizole

メピリゾール



C<sub>11</sub>H<sub>14</sub>N<sub>4</sub>O<sub>2</sub>: 234.25

4-Methoxy-2-(5-methoxy-3-methyl-1H-pyrazol-1-yl)-6-methylpyrimidine [18694-40-1]

本品を乾燥したものは定量するとき、エピリゾール (C<sub>11</sub>H<sub>14</sub>N<sub>4</sub>O<sub>2</sub>) 99.0 % 以上を含む。

性状 本品は白色の結晶又は結晶性の粉末で、においはなく、味は苦い。

本品はメタノール又は酢酸(100)に極めて溶けやすく、エタノール(95)に溶けやすく、水又はジエチルエーテルにやや溶けにくい。

本品は希塩酸又は硫酸に溶ける。

本品 1.0 g を水 100 mL に溶かした液の pH は 6.0 ~ 7.0 である。

#### 確認試験

(1) 本品 0.1 g にバニリン 0.1 g、水 5 mL 及び硫酸 2 mL を加えてしばらく振り混ぜるとき、黄色の沈殿を生じる。

(2) 本品 0.1 g を水 10 mL に溶かし、2,4,6-トリニトロフェノール試液 10 mL を加えるとき、黄色の沈殿を生じる。沈殿をろ取し、水 50 mL で洗い、105 °C で 1 時間乾燥するとき、その融点は 163 ~ 169 °C である。

(3) 本品の 0.1 mol/L 塩酸試液溶液(1 → 200000)につき、紫外可視吸光度測定法により吸収スペクトルを測定し、本品のスペクトルと本品の参照スペクトルを比較するとき、同一波長のところに同様の強度の吸収を認める。

融点 88 ~ 91 °C